

序 文

2022（令和4）年は、富岡製糸場が1872（明治5）年に操業を開始して150周年という大きな節目の年でした。

富岡市では、開業150周年に因んで10月に記念式典をはじめ、記念シンポジウムや世界遺産サミットなど、様々なイベントを企画いたしました。多くの皆様にご出席をいただき、これらのイベントを実施することができましたことは、富岡製糸場が持つ魅力と価値を広く発信する機会になったと考えております。

加えて、この150周年という大きな節目の年に改めて感じたことが2点あります。それは、富岡製糸場の価値を多くの方に理解してもらうことが、いかに大切であるかということ、そして、市民の皆様が世界遺産のあるまちに暮らしていることを誇りに思っていただけのような取組を推進することが重要であるということです。

今後も引き続き、富岡製糸場に気軽に入場していただくためのイベントをはじめ、新たな発見や気づきが得られるような企画等を行うとともに、デジタル技術を活用したコンテンツを開発するなど、特に若年層や子どもたちが楽しく見学できる仕組みの充実を図っていきたいと考えております。

2014（平成26）年6月、富岡製糸場と絹産業遺産群は、高品質な生糸の大量生産の実現をもたらした19世紀後半から20世紀にかけての養蚕、製糸分野における日本の技術革新及び世界との技術交流を示す集合体の好例としてユネスコ世界遺産に登録されました。

この際にユネスコの諮問機関である国際記念物遺跡会議からなされた勧告の一つに「フランスからの、あるいは国内における、女性たちの指導者あるいは労働者としての役割を通じた技術移転についての調査を行うこと。また、労働者の労働環境・社会的状況についての知見を増すこと。」があります。

本市では、これに先立つ2008（平成20）年度に富岡製糸場総合研究センターを立上げ、富岡製糸場とフランスとの関わり、富岡製糸場の経営状況、女性労働環境、繰糸機など機械器具の変遷、富岡製糸場内での発掘調査の成果など様々な視点から調査研究を推進してまいりました。

この度、同センターの1年間の活動の成果を『令和4年度富岡製糸場総合研究センター報告書』として刊行することができました。読んでいただいた方にとって、新たな発見や気づきのきっかけとなれば幸いに存じます。

最後になりますが、本書の刊行に当たり貴重な資料の提供をご承諾いただきました片倉工業株式会社様をはじめ、関係各位に厚く御礼申し上げます。

令和5年3月

富岡市長 榎本義法